

昭和興産インドネシア

現地調達増やし事業強化

昭和興産は6月、インドネシアに現地法人「昭和興産インドネシア」を設立、9月から事業を開始した。貿易ライセンスも8月に取得済みで、一般消費財関連自動車関連、インフラ関連

を柱に現地ビジネスを拡大する。矢尾智アイレクターおよびローカル3人の4人体制で始動したが、来春にはセールス専門のローカルを増員し、さらに3年後をめどに10人体制まで拡充する計画。2018年には売上高10億円を目指す。



矢尾智 アイレクター

昭和興産はタイ、中国(上海、香港)に海外拠点を有し、インドネシアが4拠点目。インドネシアに進出している日本で取引のある顧客向けに原材料を輸入し税関手続きなどを経て供給する業務をまず展開するが、

次のステップとして現地調達を拡大。さらに先のステップとして現地市場に販売展開を広げるとを視野に入れる。タイや中国の拠点と連携し、シナジーを發揮させていく。

取扱品目は、サニタリー部材などの一般消費財関連、樹脂や切削油などの自動車関連、汎用樹脂・コンパウンドといった産業資材などのインフラ関連がそれぞれ3割、残りが食品や電材だ。

同社は「カシ製の工業団地グリーンランド・インタ

ーナショナル・インダストリアル・センター(GIIC)に立地。1階部分に少ロット品を在庫できるほか、近くに倉庫を借り在庫販売を開始している。倉庫はマイナス20度Cまで冷蔵・冷凍保存が可能だ。

昭和興産はアジア事業拡大を重要経営課題としており、インドネシア進出はこれの一環。アジアで活躍する人材の育成にも力を注いでおり、20代や30代の若手が「トレーニーとして一定期間研修できるようにしたい」と(矢尾智アイレクター)考え。